

「役員だより」2021年8月号

役員だより 7月号 「熱海土石流を考える」雑感

「土・石」については多少の知識はありますが「流」という水が合わさった現象については私の拙い知識では何かを述べることは出来ません。

しかし、以下の様に感じています。

役員だより 7月号「熱海土石流を考える」で、代表理事の言われる『これまでに、毎年のように起きる同種の災害に関してはたくさんの調査が行われ、たくさんの調査報告や研究が蓄積され、多くの論文が出版されているのに、役に立っていないのではないかと筆者には思える)というこの無力感。

"一体、過去の経験や教訓はどう生かされてきたのか?"とまたしてもその疑問に突き当たる。」という思いに深く考え、勉強をさせていただきました。

基本留まっている「土と石」はどこにも行きません。

しかし、「水」は、形が無く、時に飛び跳ねることはありますが、高いところから低いところに流れ・移動する単純な「もの」です。

しかし、大量の水が移動する時は、その流れや力は侮りがたく、自分にとって最も都合の良い所に形を変えて移動し、土を削り、土を押し流し、土の抵抗力をなくしながら、最も低いところまで流れて行って形が安定するまで移動を続ける様に思えます。

大きな自然の力に対しては、どうにもできないところもありますが、それでも何か「見過ごしている所もあるのではないかと感じています。

水は高いところから低いところに流れる。

そして、時にその流れによって周辺環境を変えながら水みちを変化させることがある。

しかし、それでも、水は低い所に流れる。

まず身近な地域で、降雨範囲や降雨量によっても大きく変わることがあり、必ずしも簡単なことではありませんが、

- 1.水が集まる場所はないか？
- 2.水が浸透する場所はないか？
- 3.斜面や法面に亀裂はないか、新たな湧水はないか？

等、安全な範囲で出来る限り水の流れを事前に確認しておくことが必要と感ずります。

近年は、AIによる地形把握が出来るので、それらがより力になるように思います。

最後に、今回の豪雨で災害を受けた皆様に心からのお見舞いと、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

2021年8月12日  
LRRRI 理事 岡本 昌弘